

新任職員等基礎研修 実施レポート

視聴期間：令和5年5月10日（水）から3週間 参加者：76名（うち市町村から71名）

新たに生涯学習・社会教育行政の業務を担当する職員を主な対象とした新任職員等基礎研修を、YouTube 限定配信により実施しました。「必修！社会教育行政の役割と可能性」をテーマに、参加者は基本的知識や姿勢、社会教育情勢や取組の実際等について学び、目指す方向を見出していました。



【前半 講話】

はじめに当センターの主査（兼）社会教育主事 **皆川 雅仁** が、『「社会の要請」にこたえる社会教育を目指して～よりよい社会教育を通じてよりよい社会を創る～』と題し講話しました。冒頭、教育基本法第12条を取り上げ、社会教育は「個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育」であることを確認しました。その上で、【学校・家庭・地域の連携・協働】や【学習の成果を生かした地域活性化】、【障害のある方の生涯学習】などの「社会の要請」にこたえるため、目標を共有したり、課題解決を目指したりするときに有効な話し合いの手法としての「熟議」について説明しました。また、自らの経験に基づく「LRDC（Look-Renovate-Do-Connect）マネジメントサイクル」が社会教育の課題解決に有効な手法であることを提案しました。結びには、社会教育関係職員の心構えとして「3原則+1」を提唱し、新任職員へエールを送りました。

【熟議】

- ① 多くの当事者が集まって、
- ② 課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
- ③ 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④ 解決策が洗練され、
- ⑤ 個々人が納得して自分の役割を果たすようになるプロセス

【3原則+1】

- ① 社会教育主事に“No”はない
- ② 友達の友達は…みな友達だ！
- ③ “こだわりをもたない”こだわり
+ 自分の立ち位置を知る
(相手の立場に立って)

【後半 講話】

当センターの副主幹（兼）学習事業班長 **柏木 睦** が、「現代的課題への切り込み方～生涯学習センターの取り組み事例から～」と題し講話しました。冒頭、当センターの3機能について説明し、事業を現代的課題である「障害者の生涯学習」「防災」「持続可能な地域づくり」に焦点化して推進していると話しました。特に障害者の生涯学習については、【体験】【話し合いの場】が【結びつき】に繋がり、それらを土台としてあきたスマートカレッジでの講座開催・障害者スポーツスペースの開設、ポッチャ交流大会へと拡大していったことを説明しました。その上で、特別支援学校の生徒や卒業生、企業、学生などを招いた熟議である「みんなの思い イウベ・キクベ」、そして車椅子による街歩きイベント「アルクベ・イウベ・キクベ」など、「社会の要請にこたえる社会教育」に生涯学習センターがどう取り組んできたかを話しました。



【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・「場を作ることが大切」「自分たちで動くつながりが生まれる」という話を聞いて、自分の実践に生かしたいと思った。
- ・熟議について難しいイメージがありましたが、立場の違う人とたくさん話したり聞いたりすることによって、自分に何ができるかを考える場であって、結論を出す場ではないということが理解できました。